

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

# まちファン

## 20号

2013年4月30日



## まちづくりについて

東日本大震災から2年が経過しました。

しかし、当初2年といわれていた仮設住宅は  
4年に延長されました。

復興予算はかなりついでいますが、  
復興の実感は、なかなか感じられません。

遅れている原因は、もちろん人材不足や  
資材不足もありますが、  
実は住民と行政の信頼関係不足、  
さらに住民同士の話し合いが  
なかなかうまく進まないという点も  
大変大きいです。

私もいくつかの被災地の復興まちづくりを  
お手伝いしていますが、  
いつも感じているのは、平常時からの  
住民まちづくり活動の重要性です。

いざという時のためだけではありませんが、  
日常的な住民の声やつぶやきを  
形にできる日本型の社会システムを  
つくりたいと思います。



## 目次

公益信託 高知市まちづくりファンド	
2011年度ハードコース最終発表会	
2012年度ソフトコース中間発表会	
発表会の流れ	2
最終発表会プレゼンテーション	
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	
中間発表会プレゼンテーション	3
「まちづくり一歩前へ」コース	
2011年度ハードコース最終発表会	
2012年度ソフトコース中間発表会を終えて	4
2012年度ハードコース第2次公開審査会	
第2次公開審査会の流れ	4
第2次公開審査会プレゼンテーション	
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	5
質疑応答・コメント	5
2012年度ハードコース第2次公開審査会を終えて	6
運営委員の紹介	6
新たな助成金制度のご紹介	7
お知らせ(退任挨拶)	7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定	8

発表会の流れ

2013年1月27日(日)、「公益信託 高知市まちづくりファンド」2011年度ハードコース最終発表会・2012年度ソフトコース中間発表会が開催されました。参加者(応募団体・一般・関係者)は約65名。2011年度にハードコースの助成を受けた2団体と2012年7月29日(日)開催の公開審査会において助成決定を受けた4団体が、事業の進捗状況を発表しました。意見交流会では、和やかな雰囲気の中、さまざまな意見が飛び交いました。

① プレゼンテーション



助成先団体が、事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表(3分)。参加者が、各事業についての良い点・質問・提案・その他の意見を付せんを書く。

② 付せん貼りタイム



記入済みの付せんを、各団体が発表で用いた模造紙に貼ってもらう。

③ 意見交流



運営委員が、貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

2011年度 ハードコース 最終発表会

GROUP1 芳原まちづくり協議会

『芳原・歴史とこどものふれあいの杜』



入り口の横に案内板、「ふれあいの杜」の核となる縄文竪穴住居、体験学習ができる学習広場を設けた。昨年5月3日から運営を始めて、雨の日以外の土・日、祝日に一般開放し、1,600人弱の来園があった。中には、小学校や一般グループの歴史学習の場としても利用してもらった。また、企画・運営などを春野高校の学生や高知大学の学生が担うことで、学生とも協働することができた。「ふれあいの杜」を作った効果は、子どもたちに縄文時代の体験学習をさせることができたこと。また、地元の人たちにとっても、運動公園が身近なものになってきたように思う。時が経つにつれて来園者が減っているの、今後の取り組みとして、

学校等の体験学習あるいは学生による行事に重点を移していき、リピーターを増やす工夫をしようと思っている。また一人でも多くの地域住民が参加できる行事を考えなければ、と思っている。

VOICE

- 地域外からの来客数が1,600人はすごい!
- なかなか子どもが歴史と触れ合う機会は少ないので、このような場を設けるのは良いことだと思った。
- 地域の人口が減少しているが、次の一歩として前へ進んでいる。地域を大切にしたい気持ちが伝わってくる。
- 寒さによる来館者減のため休園になっているが、有効活用できないか?
- その場を使って防災イベントを開いてはどうか?

GROUP2 絆・ふれあい高知

活動目的の達成に向けて、自立運営するためのみんなが憩える場所「コミュニティカフェ絆」づくり



改修以前は、和式のトイレを簡易洋式にしていたが、不安もあったようで、なかなか使ってもらえないという問題点があった。ファンドの助成でトイレの改修を行い、自分たちで天井を塗ったり、知り合いの大工さんに壁や床の塗替え等をしてもらったりした。改修後は、病院のトイレを使ってから来ていた人が、「コミュニティカフェ絆」に行ったらトイレが替わっちゃうよ、あっち使ったらえいやん。行こう、行こう」と来てくれるようになった。トイレが利用しやすくなったことで、滞在時間が随分長くなったと思う。これを1つのきっかけにして、今後は、絆という形を中心に地域を巻き込み、商業高校の学生とも連携していきながら、地域のお弁当配達や不燃物の回収など、展開をどんどん広げていきたいと思う。

VOICE

- 地域に根差した地道な取り組みが素晴らしい。地域住民と共に生きる形があって良い。
- トイレをきっかけに、いろいろな立場・世代の人が交流でき、すごいと思う。
- トイレの改修というハード面を通じて、高齢者がいきいきと話せる場ができています。
- もともとの活動があった上で、さらに良くしようという思いからの改修なので効果があったと思う。

## 「まちづくり一歩前へ」コース

●プレゼンテーション●

### GROUP 1 みんなで考えるホームレス支援と貧困問題 どうちネットホップ



生活保護バッシングに関する講演会を開催し、医療、福祉、行政関係者、貧困や格差問題に関わっている方など、約120名が参加。生活保護に関する問題も絡め、保護制度そのものを今後どういう枠で考えていくのかという、問題意識を共有する場になったと思う。単なる生活保護の問題ではなく、その背後にある貧困や所得格差の問題といったものを考えるいい機会になったと思う。また、リーフレットの作成を通して、活動を広く知ってもらおうと同時に、貧困問題をより広く知ってもらいたいと思う。現在は、サンプルを作成し、来月上旬には印刷が完了する予定。今後の

展開として、「無縁社会、老人漂流社会を追って」と題し、講演会を開催予定。案内チラシも作り、広報していきたいと思っている。

#### VOICE

- 生活弱者に向けた取り組みですね。素晴らしい。
- 長い活動になると思うので頑張ってください。
- 記念講演に行ってみよう。
- 講演会も必要だが、夜回りを地道に行っていることに頭が下がる。
- 学校への出前事業はどうか。

### GROUP 3 若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み Sunday Market Supporters



毎週日曜日の観光案内や休憩所の運営、出店者の手伝い他、「SMS新聞」の発行、出店者への「感謝カード」配布。また、日曜市の食材を使い、町名ごとの鍋を作り、観光客や出店者に提供しようとして企画したが、許可が下りず試作品の段階で止まっている。若者が日曜市について提案し、市民と出店者、行政の三者が日曜市の新たな可能性を考えることを目的にシンポジウムを開催。参加者に市の重要性を確認してもらうことができた。出店者からも、「学生がこんなに日曜市のことを考えているのか」という声があった。しかし、繁盛期で出店者の参加が少なく、出店者側の視点が少なかった。

今後は、出店者の意見を取り入れ、見て考える場を提供し、繋がりを深めるとともに、今以上に出展者が求めることを考えていきたい。

#### VOICE

- 学生起案というところが素晴らしい。それ自体地域の活性化と思う。
- 日曜市に若者が参加できる可能性があるので、これからも続けて行ってほしい。
- いろいろな工夫をして日曜市を盛り上げていて素晴らしい。
- SNS新聞やシンポジウムが、あまり知られていないのが残念。もっと粘り強い告知を。

### GROUP 2 音楽の力でまちを元気に！ 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2012実行委員会



全9カ所の屋外ステージで、120組、約450名が演奏する音楽祭を実施。来場者約5,000人が来場した。助成を受け、これまで地べたにテントを置いて実施していた丸ノ内緑地の会場に、一般のステージを組み開催することができた。これにより、中央公園に集中してしまうことを少し改善できた。当日はフリーマーケットを開催するなど、いろいろな催しを随時やっている。そして、今年から、南相馬ファクトリーという福島県の作業所のグループに、ラ・ラ・ラバッジの製作を依頼し、販売することで、震災の支援にも協力させてもらった。今後の課題は、タウンモビリティス

テーションなど、他のいろいろな活動をしている方と協働してやっていくということ。

#### VOICE

- 実際に見に行っただが、街なかに音楽が響いていて楽しい気持ちになった。
- 街なかに音のにぎわいは良い。人が楽しく、まちが楽しく。
- 10年以上の実績が素晴らしいので、他の団体を巻き込んでさらに大きな活動に！！
- 多くの人たちが県外から来ると良い！

### GROUP 4 障害者スポーツを通じて障害者理解を深め、共に生きる地域づくりをめざそう 特定非営利活動法人 高知障害者スポーツ地域振興会



進捗状況は、市内の中学校への体験授業が1件、市外の活動が3件、高校での出前講演が1件、また春野の障害者スポーツセンターで体験教室を3件、徳島で1件実施。今後、市内の活動1件を予定。春に予定している車いすスポーツ交流会では、違う障害の人たちとの交流ができないか計画を進めている。また、活動先を小中学校だけでなく、親子体験や地域のグループでの体験などに広げ、多くの人に一緒に楽しみながら、障害者理解を深める体験をしてほしいと願い活動している。今後の課題は、車いすの老朽化や競技中の接触による破損に伴う修繕費用など、維持管理

に頭を悩ませている。また、広報活動や、ボランティアの増員も、残念ながら思うようには進んでいない。

#### VOICE

- 車いすによるスポーツ活動を通して地域のつながりが作れるので良いと思う。
- 障害者スポーツの場は、とても重要であると思う。学生との関わりという面が素晴らしいと思う。
- 障害者の理解となると堅苦しく考えてしまいがちなので、一緒に楽しくスポーツをすることで理解することができるので良いと思う。

中間・最終発表会という限られた時間の中でコミュニケーションを円滑にするために、模造紙での発表付箋記入(良いところ・質問・提案・その他の四色)、運営委員が整理してのコメント紹介や質疑応答という運営は高知まちづくりファン্ডが開発したもので、僕は「高知方式」と言っても他でも推奨しています。今日の成果を見て、皆さんもきっと「体験して良かった、いい時間が過ごせた」と思われていることでしょう。

今日、発表された六事業のうち四事業は、子ども障害のある方、高齢者、ホームレスの方など、公共サービスや事業がなかなか行き届かない人たちに温かいまなざしをもち、その人たちとの関係を新たに作り出すというものでした。やはり「多様な方々との共生関係」が重要で、まちづくりにはハードもソフトも両方が必要です。

「絆・ふれあい高知」のトイレ改修は、ハード整備の中では、さほど高い金額ではありませんが、あれほどの多くの方々に感謝されて、地域コミュニティ形成におおいに役にたっているのは、ハード整備の有効性という観点からも、素晴らしい事業だと思います。

「Sunday Market Supporters」は、日曜市の支援活動ですが、まちづくりファン্ডの十年を振り返っても、大学生の取り組みはいろいろとあり、高知のひとつの特徴になっています。また、演劇のサークルなど、皆が元気になっていたりするイベントにもこれまで支援をしてきましたが、先日の公開審査会で、あまりまちづくりと結びついている印象の少なかった「高知街ラ・ラ・音楽祭2012実行委員会」は、入場者がたくさん来る会場で、まちづくりファン্ডの広報をしていただいたので、それも新しい活動で良かったかもしれません。何年か前、ファン্ডの助成事業でイベントが多い時代があり、運営委員会の中でも議論になりましたが、開催して終わりというのではなく、イベントのやり方や継続性という点で、少しずつ改善されてきているように思います。

さて、二〇一二年度から高知市まちづくりファンズの姉妹版といった形の「こうちこどもファン」が始まりました。小・中・高校生が対象ですが、今年度、

選定した十事業の傾向としては、小・中学生と大人と一緒にやっていくという事業が多かったと思います。「高校生のまちづくり」というのは全国的に見ても、それほど多くありません。高校生は本当に忙しいし、受験も控えていて、将来の自分のことを考えなければならぬ重要な時期です。しかし、今日の発表を聞いていたら、「芳原まちづくり協議会」では春野高校、「絆・ふれあい高知」や「Sunday Market Supporters」では商業高校、それから「高知障害者スポーツ地域振興会」でも高校生との活動の紹介がありました。四つの事業で高校生の参加があったことは大変素晴らしい、これも高知のひとつの特徴と言えるでしょう。

まちづくりを継続したり、他のグループに活動を伝えたりする時に、写真や映像などの視覚媒体がとても重要です。今日の発表の中で私が最も素晴らしいと思った写真は、「芳原まちづくり協議会」の、斜面に丸太を置いて子どもたちが並んでコミュニケーションしている写真でした。以前、視察で、イギリスのある学校の先生から聞いた「ヒドゥン・カリキュラム」(Hidden Curriculum)というキーワードを思い出しました。これは「隠れたカリキュラム」ということで、教室以外の校庭や学校周辺、公園など、子どもたちが日常生活をおくっている空間や景観が、実は学校の教科と同じくらい子ども達に影響を与えているという意味です。芳原のこの空間が子ども達に多くのことを伝えているだろうと想像しました。このようなことを考えさせる、とてもいい写真でした。

最後になりますが、高知まちづくりファンズが十年を迎えるということで、私は三月末をもって運営委員長を退任いたします。十年間、高知でまちづくりをしてもらえる方々とたくさん知り合いになりました。「高知らしい」まちづくりを勉強させていただきました。本当にありがとうございました。今後は、「こうちこどもファン」をお手伝いさせていただきますので、また、どこかでお会いすることもあると思います。どうぞよろしくよろしくお願いいたします。

## 公益信託 高知市まちづくりファンズ 2012年度ハードコース 第2次公開審査会

### 第2次公開審査会の流れ

2012年7月29日(日)開催の第1次公開審査を1団体が通過。2013年1月27日(日)に第2次公開審査会を開催しました。

#### 1 プレゼンテーション



応募団体が事業内容を模造紙に記載し、10分以内でプレゼンテーションを行った後、20分以内で質疑応答。

#### 2 一次判断



各運営委員が審査基準の項目ごとにA、B、Cの3段階で評価。

#### 3 質疑



審査基準の項目ごとに質疑応答。

#### 4 最終判断



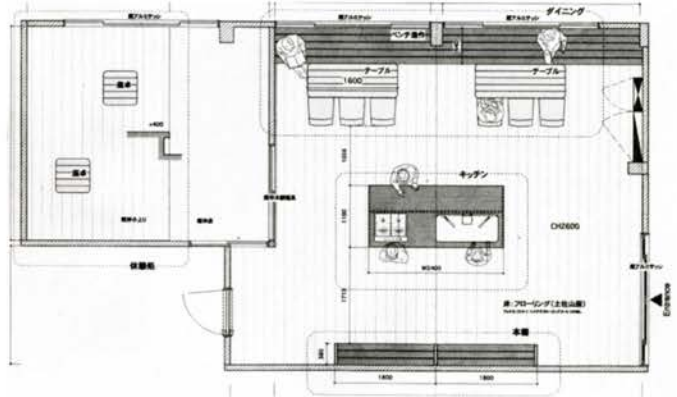
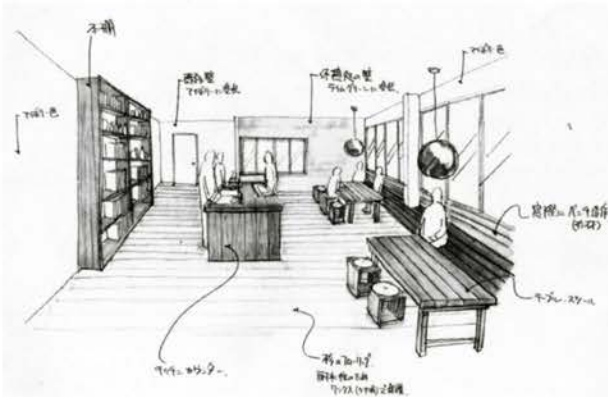
各運営委員が助成するかどうかを最終判断。

GROUP  
1

地域内外の交流から生まれる中山間地域の新たな施設の活用モデル

NPO法人 土佐山アカデミー

今回の整備対象は高川集落の中にある、地元企業オフィスの跡地である。20年前から夢産地とさやま開発公社が有機農業を推進していたが、現在は一年間以上空いている状態である。全面を杉板で覆う形に整備して、左側をライブラリーにし、いろいろな世代の人たちが自由に使えるスペースにしたい。可動式キッチンの周りで人が集い、食べ物を食べ、一緒に話をする場所として機能させる。さらに、考えているのは、防災拠点。地域連携による防災プロジェクトということで、街と山が支え合い、一次避難する場所となる。そういったプロジェクトや拠点としてワークショップなどの取り組みをしていく。また、地元の人が講師となり、土佐山の素材の生かし方をみんなで考え、作ったり、体験したりしていきたい。外の人を取り込んで、地域の未来を考え、地域の人にとっては井戸端会議のような場所であるが、街の人にとっては裏山にある基地となるような取り組みをしていきたいと思っている。運営は、NPO法人土佐山アカデミー。協力体制として、高川地域、夢産地とさやま開発公社。



質疑応答

- Q 施設の管理は？
- A 夢産地とさやま開発公社（以下開発公社）が野菜集荷場の運営をしているので、その時、施設の開け閉めをしてもらう。10時から5時までは地元の方を含め、自由に使ってもらおうオープンスペースとして貸し、イベントやワークショップで貸し切りしたいという場合は、特定非営利活動法人土佐山アカデミー（以下土佐山アカデミー）に事前連絡をしてもらい、土佐山アカデミーのコーディネーターを付ける。
- Q 第2次審査会までの地域との話し合いがアイデア出しだけで終わっているが、今後の具体的な施設の活用計画は？
- A まず、このプラン自体が具体的な何かをやろうというより、受け皿をつくる要素が非常に強い。交流する中で知恵や情報を交換し合って、新しいものを生み出していくというシチュエーションをつくるということに特化している。
- Q 施設の活用として、川遊びや沢上りでの釣り具置き場や脱衣所、野菜のハネ物や地元加工品の販売などの取り組みは、改修をしなくてもできることだと思うが、これまでなぜできなかったのか？
- A 確かにやろうと思えばできると思うが、これまで開発公社のオフィスとして運用されていたので、地域と開発公社の中で実施の話にはならなかったし、労力面から言っても地域に負担がある。
- Q 自然の中の小洒落た空間は、生活感の中にマッチするのか？
- A 木の素材をふんだんに使い、誰もが居て気持ちいいと思えるような空間でないと、人は集まってこないと思う。そこに外の人たちを巻き込んだ地域防災というのがあるかもしれない。定期的な集まりがあって、行けば出会いがあり、お酒が飲めるとか、週に一回、マッサージの女の子が疲れている体を癒やしてくれるとか、今、土佐山に求められている身近なニーズというものを解消していくようなことも実現していきたい。
- Q 整備施設の所有者は？維持管理はどのようにするのか？
- A 今、開発公社が高川地区生産組合（以下生産組合）から年間いくらかで借りているスペースを土佐山アカデミーがソフトを運用しながら使わせてもらう。借りる際の詳細条件や賃借料については話し合っていない。賃借料に関しては基本的にないと考えているが、電気代、ガス代といったものは、運用の中で収益を出してカバーしていく。所有者は現在のところ生産組合だが、今後どのようになるかは分からない。今は開発公社に貸しているのだから、開発公社とアカデミーとの間で承諾を交わせば、生産組合は構わないということを確認している。三者間での貸借契約書は結んでいないが合意はできている。

二〇一二年年度ハードコース  
第二次公開審査会を終えて

運営委員長 卯月 盛夫 (早稲田大学教授)

「今日、ご参加の皆さんには議論をお聞きいただき、このハード事業「まちづくり大きな一歩(ソトからハードへ)」コースというのは難しいなど、お感じになられたことと思います。」

ただ、私達は申請された事業を落とすためにやっているわけではありません。いいものをつくってもらうために議論をしています。よりコストパフォーマンスの高い、いいものをつくっていただくことが、私達、運営委員に託されているのです。公開の場で非常に厳しいことを言ったかもしれませんが、高知市の皆さんの税金で、あのスペースを土佐山につくることが、みんなに「良かったね」と言ってくたさるかどうかを押し量りながら、このように議論していることをぜひご理解いただきたいと思えます。

また、もう一つ、苦言を呈して申し訳ありませんが、夏の公開審査会から今日の第二次公開審査会まで、今回の申請者は、事務局とのコンタクトにあまり熱心でなかったと聞いております。やはり、そういったことが今日の審査にも影響していると思えます。具体的な整備計画や、整備することによって実施される利用計画、また、ソフトな活動を実施していくための地域との十分な話し合いを重ねるなど、申請された整備をより具現化するために、実は半年間の検討期間を設けています。そういったプロセスを大切にすることが重要で、ただ、申請書をほとんど出すといったことがないよう、今後はお願いしたいと思えます。

私達は、今回第二次公開審査会に向けての提出書類やプレゼンテーション、質疑応答を受けて、一次判断を行いました。見積金額の妥当性やその精査はもちろんです。土地・建物の賃借契約、管理・利用運営計画(一年間)が不十分というところで、それらの提出・確認をした上で最終判断という「条件付き助成」となりました。これは今まではじめての対応です。二月中に指定の書類をご提出いただき、三月中に助成条件が整っているかを運営委員会で確認した上で最終判断をさせていただきます。今日の議論を十分振り返っていただき、一カ月間、しっかりと取り組んでください。

また、土佐山のまちづくり、地域づくりの発展を心からお祈りしたいと思います。

第2次公開審査会での審査結果と最終判断

「2012年度ハードコース第2次公開審査会」(本誌4ページ掲載)の結果、2012年度中に運営委員会指定の書類提出および面談をすることを条件として助成決定をしました。期限内に書類提出があり、面談を実施しましたが、管理・利用運営計画およびそれに伴う整備内容の妥当性が認められなかったため、運営委員会の最終判断で、助成金の交付決定を取り消しました。

運営委員の紹介



運営委員  
井上 将太  
(高知大学総合  
人間自然科学  
研究科農学専攻)

今回の第2次公開審査会は例年以上に白熱したものととなりました。結果は助成するという結果になりましたが、ハードという特性を考えると、ソフトとの連携をもう少し見えた方が良かったと思います。活動のコンセプトは素晴らしいので、今後の住民や外部の方を巻き込んだソフトの動きに期待しています。



副運営委員長  
増田 和剛  
(高知中・高等学校教諭)

活動がある程度軌道に乗ってきた時に、最初の思いとは異なり、活動をやっているという満足感に浸り、初心を忘れてしまい、方向性を見失う場合もあります。そこで、活動を進めるにあたり、一度、原点に戻り、今の活動がどのくらい達成しているのか、客観的に検証する活動も必要です。



運営委員長  
卯月 盛夫  
(早稲田大学教授)

Cコースの審査は書類と公開審査会だけで判断するのは大変難しいので、これまでも現地にも行って状況を把握してきましたが、それでも今回は判断が難しく、委員の意見は大きく分かれました。その結果、「新たな書類提出を条件に助成する」という異例の結果となりました。今後は、Cコースの審査を少し工夫した方がよいかもかもしれません。



運営委員  
近藤 昭仁  
(元高知市市民協働部長)

「ハードコース」は、助成整備された施設を活用して、地域活動を更に発展させていくためのもので、これまでの実績より、整備後の事業効果・拡大への取り組みが重要となります。今回、事業への熱意と期待感で、応募決定されましたが、基本となる施設管理・運営計画等の具体的説明が十分でなかったと思います。



運営委員  
川崎 敬子  
(グラフィックデザイナー)

ファンダが設立されて10年間、卯月先生、本当にありがとうございました。審査は土佐山アカデミーさんの準備不足部分も見えて、とてもしんどい判断となりました。他の実績や土佐山をなんとか活性化させようとしている気持ちを後押ししたいと思い決断しました。期待に応えて頑張ってください!



運営委員  
植田 佳代  
(NPO法人 デイサービスマ)

『大きな成果は、小さな活動の積み重ね』今回の公開審査の感想です。まちづくりは、一足飛びにでき上がるものではなく、人と人との繋がりや紡ぐ地道な活動があり、さらに広げていくための助成。そこが、行政の箱物事業との違いです。今回の公開審査で一番感じたことです。



運営委員  
宮地 貴嗣  
(ラ・ヴィータ 宮地電機)

今回のハードコースの最終審査は難しいものとなりました。土佐山アカデミーの意気込みはよく分かりましたが、一次審査から半年間の準備と進捗をもう少し頑張ってもらいたかったです。これをゴールとせず、土佐山の魅力が多くの高知市民に伝わる事業にしたいと願っています。



運営委員  
堀 洋子  
(社)高知建築士会)

ファンダ10年目の締め括りとして、ハードコースの2次審査でNPO法人土佐山アカデミーの提案する、地域内外の人たちが集う施設整備事業が条件付きで決定されました。土佐山の自然に魅せられたアカデミーの県外(風の人)と土佐山高川地域の(土の人)との協働での情報発信で、過疎化する山の活性をめざしてください。



運営委員  
四宮 成晴  
(四宮計画事務所)

このたびは、選考の難しさを改めて痛感した審査会でした。申請内容はもちろんのこと、発表者を通してシミュレーションしなければならぬ地域の意欲と高揚、施工後の地域の笑顔や賑わい等が複雑に錯綜、まよいする大変な一日でした。

# 助成コースリニューアル!

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、2013年度で11年目を迎えるにあたり、新コースの設立や制度の見直し、応募用紙の簡素化など、助成コースをリニューアルし、全体的に応募しやすくなりました。これからも多くの人に、まちづくりに興味を持ってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしていきます。

- ①「学生まちづくりコース」を新設しました。
- ②ハードコースは、上限100万円となり、1回の審査で助成決定することになりました(ソフトの経費についても、一部、助成対象となります)。
- ③全コースの助成率が100%になりました。

※詳しい内容につきましては、最終ページ、または、2013年度募集要項をご確認ください。

運営委員

## 退任のあいさつ

2013年3月31日(日)をもちまして、3人の運営委員が退任されることになりました。より良いまちづくりをめざして、応募団体への貴重なご助言をいただき、ファンド運営においてご尽力くださいました。



2003～2012年度  
卯月盛夫  
(早稲田大学)

「高知市まちづくりファンド」は、2003年に市の出捐金3,000万円で公益信託として設定され、この12年間で延べ100以上の市民団体が活動をしてきました。このたび第1期は無事に終了し、市は第2期としてさらに基金3,000万円を出捐しましたので、この市民活動助成は今後10年間継続します。私は当初から本公益信託の運営委員長としてお手伝いをしてきましたが、今回、この機会に、退任することになりました。本当に長い間お世話になりました。公開審査会の中では、大変厳しい発言をしなければいけないこともあり、ひょっとしたら不愉快な思いをされた市民の方もいらっしゃるかもしれませんが、どうぞお許しください。今後も、高知のまちづくりを担う市民が増えていくことを心より期待致します。



2011～2012年度  
井上将太  
(高知大学  
総合人間自然科学  
研究科農学専攻)

私がまちづくりファンドに初めて関わらせていただいたのは、6年前の公開審査会でした。自主的に活動を続けている団体が高知市にこんなにかつと驚き、その後の自らの市民活動の活力になったことを覚えています。2年前からは運営委員という責任のある立場に立たせていただき、たくさんの苦労もありました。しかし、大きなやりがいと、私自身もたくさんの学びを得させていただきました。今後は自分の目標のために、まちづくりファンドとの関わりがなくなりますが、これからも自分の活動の原点の一つとして応援できればと思います。1期(2年)という短い間でしたが、今までありがとうございます。



2011～2012年度  
植田佳代  
(NPO法人デイサービスまる)

2年前、ファンドの運営委員になるまで「高知市まちづくりファンド」のことを知りませんでした。運営委委員になったことで、高知市にこんなに多くのまちづくり活動があることを知り、感動と刺激を受けました。個人、団体それぞれの活動には、さまざまな困難が生じることと思いますが、継続することが重要、頑張ってくださいと願います。私の所属するNPO法人の活動も11年目を迎えました。小さなデイサービスですが、介護を必要とする人が誰でも安心して利用できる場所を提供し、私自身がまちづくりの一端を担う側であり続けたいと思います。

# 公益信託「高知市まちづくりファンド」

## 助成コース紹介

### A:「学生まちづくり」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します(構成員のうち3名以上が18歳以上の学生であること)。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します(助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます)。

### B:「まちづくりはじめの一步」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します(助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます)。

### C:「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

### D:「まちづくり拠点整備」コース

高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていこうと行うまちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

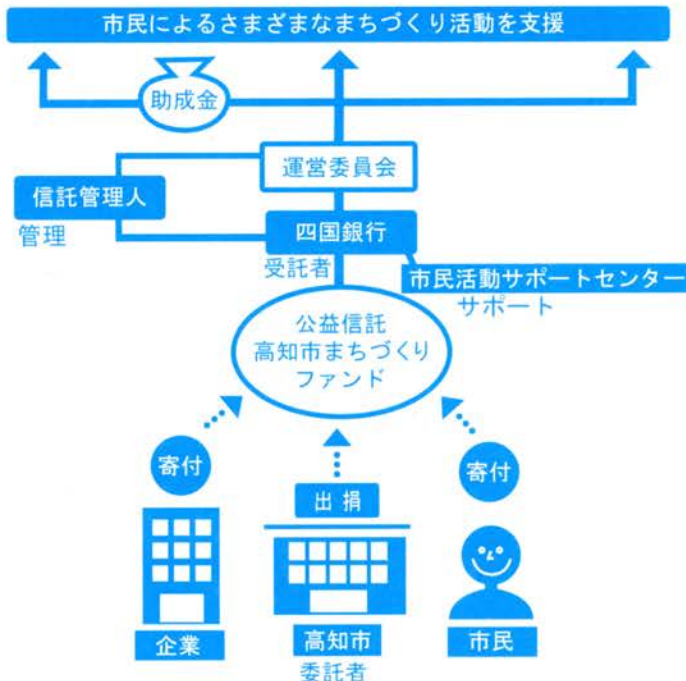
助成金額 上限100万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先:

高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、2003年5月、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設、また、2012年4月、新たに3,000万円を追加出損しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。公益信託「高知市まちづくりファンド」の11年目となる2013年度からは制度を一新し、より利用しやすい助成金制度に変わります。これからも多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。



### 高知市市民活動サポートセンター

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

## まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された基金は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行  
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話:088-871-2308(直通)

### 今後のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市南部健康福祉センターを予定しております。

「まちづくり一歩前へ」コース (2012年度助成事業)

最終活動報告書の提出期限 7月 5日(金) | 最終発表会 7月27日(土)

### 新制度のまちづくりファンド(予定) ※新制度適用の「まちづくりファンド」の詳細は、募集要項をご覧ください。

#### A「学生まちづくり」・B「まちづくりはじめの一步」コース

応募受付期間 第一次 4月20日(土)～5月20日(月)

第二次 6月20日(木)～7月20日(土)

※第一次募集の応募状況により実施するか判断

#### C「まちづくり一歩前」・D「まちづくり拠点整備」コース

応募受付期間 4月20日(土)～6月 5日(水)

事前説明会 4月21日(日)13:30～15:30

4月26日(金)18:30～20:30

公開審査会 2013年7月28日(日)

※A・Bコースについては、書類審査のため活動紹介のみ行う

中間発表会 2014年1月26日(日)

最終発表会 2014年7月26日(土)

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL:088-820-1540 FAX:088-820-1665

E-mail:npokochi@siminkaigi.com 【URL】http://www.kochi-saposen.net/

R100  
古紙配合率100%再生紙  
を使用しています